

From Modern to Contemporary: The Quintessence of Art in Wakayama

和歌山の近現代美術の精華

2021年10月23日(土)－12月19日(日) ※11月24日(水)に、一部展示替えを行います。

海と山に囲まれた自然風土を背景に、独自の歴史と文化を育んできた和歌山県は、今年、誕生150年を迎えます。この機に際し、「紀の国わかやま文化祭 2021」と連携して開催する本展では、館蔵品はもとより国内各地から、和歌山の近代と現代をめぐる重要作を集めて紹介し、和歌山で育まれた文化の魅力を再発見する機会とします。

第1部 観山、龍子から黒川紀章まで



1-1 下村観山《唐茄子畑》1910(明治43)年頃 東京国立近代美術館蔵 ※後期展示



1-2 川端龍子《南飛図》1931(昭和6)年 和歌山市立博物館蔵

プレス向け解説会・ 開会式のご案内

プレス向け解説会

2021年10月22日(金)13時30分から
プレス関係者を対象に解説会を実施いたします。
ぜひ、この機会を利用して取材していただき、「和歌山の近現代美術の精華」展の魅力を発信していただきますようお願い申し上げます。

開会式および内覧会

2021年10月22日(金)15時から17時まで
※開会式に引き続き、内覧会を17時まで実施します。

第2部 島村逢紅と日本の近代写真



2-9 島村逢紅《椿》1934(昭和9)年
個人蔵

2-11 島村逢紅《鮎》1943(昭和18)年
個人蔵



第1部 観山、龍子から黒川紀章まで

明治期以降の近現代美術史において独自の足跡を残した美術家を、和歌山は数多く輩出してきました。また大正期に和歌山出身の美術家を招集して南紀美術会を創立した徳川頼倫や徳川頼貞、文化学院を開校した新宮出身の西村伊作など、美術家たちがそれぞれの世界を築くために重要な役割を果たした人物がいたことも忘れられません。

第1部では、和歌山ゆかりの美術家と支援者たち、そして和歌山県立近代美術館を設計した黒川紀章まで、多種多様な作品や資料を一堂に集めて展示します。



1-3 建畠大夢《ながれ》1911(明治44)年
東京国立近代美術館蔵



1-4 村井正誠《風の中の除幕式》1968(昭和43)年 和歌山県立近代美術館蔵



1-5
田中恭吉《失題》
1914(大正3)年
和歌山県立
近代美術館蔵
※後期展示



1-6 石垣栄太郎《街》1925(大正14)年
和歌山県立近代美術館蔵



1-7 石垣栄太郎《街》1925(大正14)年
神奈川県立近代美術館蔵



1-8 稗田一穂《春巡る熊野》1995(平成7)年 田辺市立美術館蔵 ※後期展示



1-9 鈴木理策《海と山のあいだ(14, DK-507)》2014(平成26)年
和歌山県立近代美術館蔵

作品・資料約 200 点

- | | |
|------|--|
| 日本画 | 下村観山、川端龍子、野長瀬晩花、日高昌克、稗田一穂 |
| 洋画 | 川口軌外、原勝四郎、石垣栄太郎、村井正誠、松谷武判、
宇佐美圭司、野田裕示 |
| 彫刻 | 下村清時、建畠大夢、保田龍門、建畠覚造、保田春彦 |
| 版画 | 田中恭吉、恩地孝四郎、逸見享、吉田政次、浜口陽三 |
| 写真 | 鈴木理策 |
| デザイン | 山名文夫、黒川紀章 |
| 美術文化 | 南紀美術会、北山清太郎、西村伊作 |

第1部の見どころ

- ・国内各地から名作を集め、和歌山ゆかりの作家たちの業績を紹介
- ・黒川紀章の当館設計図など、和歌山で初公開となる作品も多数展示

第2部 島村逢紅と日本の近代写真

第2部「島村逢紅と日本の近代写真」では、和歌山市出身の写真家・島村逢紅（本名：安三郎／1890–1944）を、初めて本格的に紹介します。

和歌山市の酒造業などを営む家に生まれた逢紅は、若い頃から美術に興味を持ち、中学時代から美術雑誌『みづゑ』に投稿して日本水彩画会会友になるなどの活動を始めました。美術学校進学は、家業を継ぐため断念しますが、しかし絵画とほぼ同時期に始めた写真は、逢紅の生涯にわたる表現活動となりました。1912（明治45 / 大正元）年には、和歌山市にて「^{もっこく}木国写友会」を結成して活動を本格化させ、雑誌の公募や展覧会などへの入賞によって次第にその名は全国に知られることになります。



1930年代には、福原信三が設立した「日本写真会」の同人となり、1939（昭和14）年に資生堂ギャラリーで初めての個展を開催、芸術写真から新興写真へと移り変わる時代において、逢紅はその独自の漆黒と階調表現により、福原路草と対比して「路草の白、逢紅の黒」と高く評されました。

本展では、交流のあった同時代を代表する写真家たち、福原信三、福原路草、野島康三、安井仲治、淵上白陽、そして「木国写友会」のメンバーだった島村嫩葉、島村紫陽、江本綾生、また同郷の寺中美一や保田龍門、その出会いのきっかけともなった荻原守衛の作品も展示し、1910年代から40年代までの逢紅の作品約200点、その他の作品約50点により、その足跡を振り返ります。



2-1 島村逢紅
《荻原守衛《女》（新宿・礫山館）》
1913（大正2）年
和歌山県立近代美術館蔵



2-2 島村逢紅《桜》制作年不詳
東京都写真美術館蔵



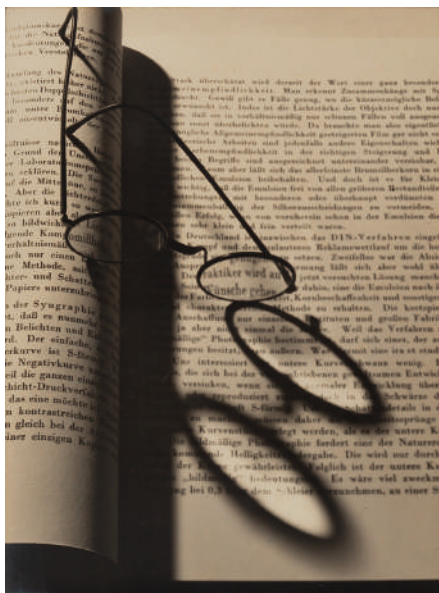
2-3 島村逢紅《母と子 其一》1934（昭和9）年 個人蔵



2-4 島村逢紅《タンク》制作年不詳 東京都写真美術館蔵



2-5 島村逢紅《スマイル》1920~30年代 個人蔵



2-6 島村逢紅《眼鏡と洋書》1930年代 個人蔵



2-7 島村逢紅《仏手柑》1929(昭和4)年 個人蔵



2-8 島村逢紅《椿(八)》制作年不詳 東京都写真美術館蔵



2-10 島村逢紅《椿》1930年代 東京都写真美術館蔵



2-12 島村紫陽《雨具》1937(昭和12)年
東京都写真美術館蔵



2-13 福原路草
《トタンの塀 麻布笄町自邸付近》
1935(昭和10)年 資生堂企業資料館蔵

第2部の見どころ

- 近代日本の写真史に大きな足跡を残した島村逢紅の作品を、福原信三、福原路草、野島康三、安井仲治といった作家たちの名作とともに、初めて本格的に紹介
- 逢紅の作品約200点、その他の作品約50点を展示

開催概要

- 会期** : 2021年10月23日(土)～12月19日(日)
※11月24日(水)に一部展示替えを行います。
- 開館時間** : 9時30分～17時 [入場は16時30分まで]
- 休館日** : 月曜日 [ただし、11月22日(月・ふるさと誕生日)は開館し、11月24日(水)は休館]
- 観覧料** : 一般: 1000[800]円 大学生: 600[480]円 [内は20名以上の団体料金]
※高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料
※11月13日(土)、14日(日)は、「関西文化の日」として無料
※11月22日(月)は、「ふるさと誕生日」として無料
※10月23日(土)、11月27日(土)[毎月第4土曜日]は、「紀陽文化財団の日」として大学生無料
- 主催** : 和歌山県立近代美術館、NHK 和歌山放送局、NHK エンタープライズ近畿



関連イベント

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容の変更、人数の制限、事業の中止を行う場合があります。変更があった場合は、美術館のウェブサイト等でお知らせします。

講演会「和歌山の近現代美術の精華」

10月24日(日) 14時～ 2階ホールにて

講師: 山野英嗣 (当館館長)

スライドレクチャー「学芸員による展示解説」

11月 6日(土) 日本画 (藤本真名美)

11月20日(土) 彫刻 (青木加苗)

11月21日(日) 美術文化 (宮本久宣)

11月27日(土) 写真 (奥村一郎)

12月 4日(土) 洋画 (植野比佐見)

12月11日(土) 版画、デザイン (井上芳子)

12月18日(土) 現代美術 (奥村泰彦)

各日14時～ 1時間程度 2階ホールにて

※詳細は当館ウェブサイトなどにてお知らせします。

こども美術館部 (小学生対象の作品鑑賞会)

12月4日(土)、5日(日)

各日11時～ 1時間程度 定員6名程度

※当館ウェブサイトより事前に参加申込みが必要。

(申込開始: 11月16日 9時30分～)

※展示室に同伴される保護者は観覧券が必要です。



1-10 山名文夫《資生堂モダンカラー粉白粉》
1933(昭和8)年 資生堂企業資料館蔵



1-11 山名文夫
《資生堂創業100年記念
新聞広告イラストレーション原画》
1972(昭和47)年
資生堂企業資料館蔵



紀の国わかやま文化祭 2021 関連イベント

講演会

11月3日(水・祝) 2階ホールにて

13時30分～14時30分 「増田八郎の仕事」 講師:藤隆宏(和歌山県立文書館)

14時40分～15時40分 「黒川紀章と和歌山県立近代美術館・博物館」

講師: 吉田行雄(建築家・元黒川紀章建築都市設計事務所設計部長・
国土館大学大学院非常勤講師)

主催:「熊野古道」を世界遺産に登録するプロジェクト準備会ほか



1-12 黒川紀章
《和歌山県立近代美術館・
博物館 カウンターの底の
原寸ディテール》
1997(平成9)年
和歌山県立近代美術館蔵



1-13 黒川紀章
《和歌山県立近代美術館
底についてのスケッチ》
1993(平成5)年
黒川紀章建築都市設計
事務所蔵

ワークショップ「光とあそぶ」

移動式ピンホールカメラ「リヤカーメラ」試乗や「かぶるカメラ」制作を通して、写真の不思議を体験します。

10月30日(土)、31日(日) 各日10時～15時

講師: 佐藤時啓(美術家・東京藝術大学教授)

場所: 当館敷地、及び2階ホール

対象: 小学生以上一般成人まで

※定員15名程度 ※事前申込み制

参加費: 500円(保険・材料費)

申込み先: NPO法人和歌山芸術文化支援協会

主催: 当館、NPO法人和歌山芸術文化支援協会ほか

9月30日(木)より先着順で受付。

メール: office@wacss.org か、電話: 073-454-5858にてお申込みください。



和歌山県立近代美術館にて「リヤカーメラ」と佐藤時啓氏

「リヤカーメラ」とは

2012年紀の国森づくり基金活用事業「森のちからV・佐藤時啓 rebirth 森をめぐる」田辺市中辺路町での滞在制作によって制作されたものです。

県立博物館(とまり)の展覧会

創立50周年記念特別展 きのくにの名宝

—和歌山県の国宝・重要文化財—

日程: 10月16日(土)～11月23日(火・祝)

和歌山県立近代美術館

学芸担当: 藤本真名美 広報担当: 中川、角

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上 1-4-14

T E L: 073-436-8690

F A X: 073-436-1337

E-MAIL: moma_w@future.ocn.ne.jp

W E B: <https://www.momaw.jp>